

施策 の 紹介

ボランティアの存在は今後の市民社会の中で非常に重要な役割を果たしていくものと思われます。ボランティアの重要性を広く浸透させるために、経済企画庁では平成十一年度から普及・啓発のための事業を展開してきました。その事業について簡単に紹介します。

「ボランティア国際年」に向けて

ボランティアビデオ

平成十一年度のボランティア国際年推進事業として、経済企画庁はボランティア活動の促進に資する映像を制作しました。より良い作品をつくるために、ボランティア国際年映像委員会を設置し、各方面からの様々な意見を取り入れながら制作が進められました。

【ボランティア国際年映像委員会】
祐成 善次氏（委員長）（日本青

年奉仕協会常務理事）

有田 典代氏（関西国際交流団体協議会事務局長）

柏瀬 武氏（NHK番組制作局教養部チーフプロデューサー）

高比良 正司氏（子ども劇場全国センター代表委員）

安岡 卓治氏（日本映画学校専任講師）

山谷 哲夫氏（ディレクター＆プロデューサー）

渡邊 昌行氏（全国社会福祉協議会全国ボランティア活動振興セン

ター副部長代理）

まず、ボランティア活動の促進に資することを目的として、大人向けと子ども向けの二つの作品を制作しました。

大人向け

タイトル：「ボランティアわっはっは」

所要時間：四十分
作品概要：ボランティアによる知的障害者の支援やアジアいちご基金によるタイの子どもたちへ

の支援を映像化することにより、これからの社会におけるボランティアの重要性を訴える。

子ども向け

タイトル：「スマイル（SMILE）」

所要時間：三十分
作品概要：ダンボールを使つての遊びながらの廃品回収、飯塚市の子ども夜市、和歌山のチャイルドライン（子どもたちによる子どものための電話相談）、愛知県の高校生による高校生フェス

ティバルなどを通して、ボランティア活動への参加の容易さを表現している。

なお、これらの作品については、十六ミリフィルムに変換してありますので、上映をお考えの地方自治体等がありましたら、経済企画庁国民生活局余暇・市民活動室（〇三 三五八一 九三〇八）へお問い合わせください。

その他

このほかに、「ボランティア国際年」を広く国民に知っていたかどうかという観点から、ビデオ制作については一般公募枠を設けました。短期間の応募期間にもかかわらず、二十四のボランティア団体から企画書をご応募いただき、その中から映像委員会による審査・面接を経て十五団体が選定されました。併せて、ボランティア活動の普及に資する映像を募集したところ、十九作品のご応募がありました。これらの作品については、映像委員会による審査により、以

下のとおり賞を授与するとともに、各都道府県のボランティア担当窓口及び教育委員会、都道府県立図書館、政令指定都市、都道府県社会福祉協議会などに配布され、広く「ボランティア国際年」の普及・啓発に役立っています。また、経済企画庁より貸出しも行っています。

《企画書公募優秀作品》

経済企画庁長官賞、ボランティア国際年映像委員会賞

「亀の歩みでいいじゃない！おんなの目が街を変える」（おんなの目で大阪の街を創る会）

経済企画総括政務次官賞

「手をさしのべて」（F プロジエクト）

国民生活局長賞

「まちを伝える人々〜まちかど案内人への取り組み〜」（まいづる塾）

国民生活局長賞

「一枚のTシャツがボランティア基金に」（平成栄市実行委員会）

《自主制作優秀作品》

経済企画庁長官賞、ボランティア

ア国際年映像委員会賞

「きこえなくても踊ろうよ」
メキのリズムにのって」（レッド・ベレーズ）

経済企画総括政務次官賞

「99ほつとではあとな体験キャンプ」（東海村・那珂町・瓜連町社会福祉協議会）

国民生活局長賞

「さあ出かけようボランティア」といっしょに（交野市ボランティアグループボランティア広報「なまこ」）

国民生活局長賞

「送迎ボランティアグループ南の風」（ボランティアフォーラムみなみ）

ポスターとキャラクターデザイン、キャラクターの名称募集

二科展によるポスターとキャラクターの募集

絵画、彫刻、写真、デザインの四つの部門について公募を行い、二科展という展覧会を開催している美術公募団体に、二科会という

団体があります。毎年、一般の方から作品の応募があり、その中から入選作品を選び、二科展で展示しています。二科展の入場者数は全国で二十五〜三十万人ということとです。その二科会のデザイン部では、毎年自由テーマ、イラストレーション、特別テーマの三つのテーマで公募を行っており、そのうちの特別テーマで公共的なテーマを取り上げています。一昨年は農林水産省の備蓄米をテーマとしたポスター、昨年は自治省の宝くじをテーマとしたポスターの公募が行われました。

そして、第八十五回の今年は、作品の募集及び展示を通じて、「ボランティア国際年」の普及やボランティア活動に対する理解と関心を深めることができるのではないかとことから、「二〇〇一ボランティア国際年をテーマとしたポスター・キャラクター」のデザインが特別テーマとして募集されることになり、経済企画庁、外務省、文部省、厚生省、自治省

2001年は ボランティア国際年

世界にはばただけ、小さなボランティア



経済企画庁

経済企画庁長官賞受賞作品

外務大臣賞…加藤 明美さん
(三重県) ポスター

二〇〇一年ボランティア国際年
推進協議会賞…小出水 優鶴さ
ん(鹿児島県) キャラクター

これらの賞に選ばれた三人の方の作品は、その他の三部門入選作品などとともに、全国各地で開催される二科展の会場に展示されています。また、経済企画庁長官賞となった高橋さんの作品については、経済企画庁が「ボランティア国際年」PR用のポスター及びシンポジウム告知ポスターのデザインに採用し、全国に配布しています。

「ボランティア国際年」マスコットキャラクターの名称募集

併せて、経済企画庁長官賞のポスター作品の一部を「ボランティア国際年」のマスコットキャラクターとすることを決定しました。マスコットキャラクターについては、国際年関連イベントをはじめとする様々な場で、「ボランティア

及び二〇〇一年ボランティア国際年推進協議会が後援しました。

四月からポスター、説明会などで告知が行われ、八月四日に出品者から作品の搬入が行われました。特別テーマについては、ポスター三百二十五点、キャラクター

三百六十七点、計六百九十二点の応募がありました。それらの作品の中から二科会デザイン部、経済企画庁、外務省、二〇〇一年ボランティア国際年推進協議会により、芸術面、「ボランティア国際年」の趣旨・目的という面、メッ

セージ性などの観点から選考が行われ、以下の方の作品がそれぞれ経済企画庁長官賞、外務大臣賞、二〇〇一年ボランティア国際年推進協議会賞に選ばれました。経済企画庁長官賞…高橋 秀司さん(愛媛県) ポスター

「ボランティア国際年」のマスコットキャラクター「ハーティくん」



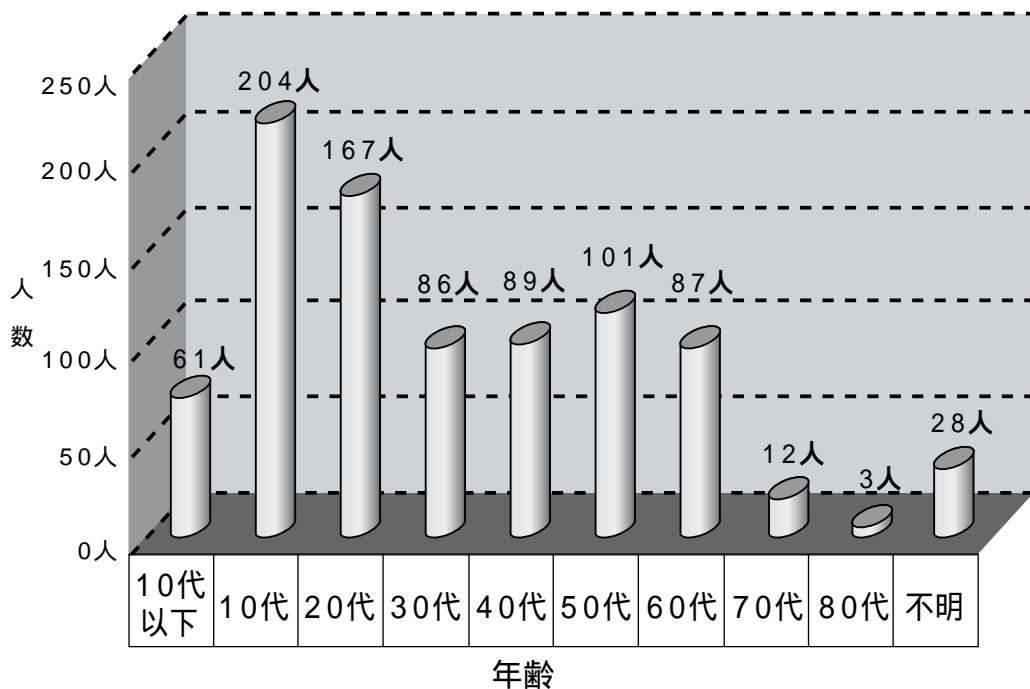
「ア国際年」の普及・啓発のために使用することにしていましたが、その際に名称があつたほうが使用しやすい、親しみやすい等の理由から、マスコットキャラクターの名称を募集することにしました。

八月二十九日から九月二十一日の二十四日間、チラシ、ホームページ、二科展東京会場で告知を行い、郵送、メール及び二科展東京会場での投票の三種の応募方法

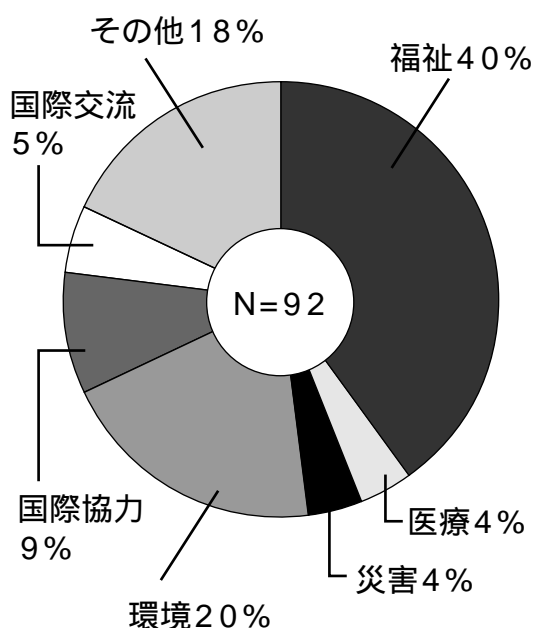
により募集を行ったところ、八百三十八人の方から八百八種類、千七十一名の応募がありました「図1」。それらのうち、分かりやすさ、親しみやすさなどの視点から検討を行い、その結果、キャラクターの名称が、「ハーティくん」に決定しました。

応募された方々の中から「ハーティくん」と応募していただいた方及び抽選で当選した方、合わ

[図1] マスコットキャラクターの名称募集状況（年齢別）



〔図2〕分野別にみた写真の応募状況



せて五十人の方に「ハーティーくん」をデザインしたテレフォンカードが贈られました。今後、「ボランティア国際年」に係る様々なところでマスコットキャラクター「ハーティーくん」を活用していきたいと考えています。マスコットキャラクター「ハーティーくん」の使用希望については、経済企画庁国民生活局余暇・市民活動室までご連絡ください。

フォトコンテストと写真展

平成十二年度はキャラクターなどの募集に続き、「ボランティア国際年フォトコンテスト」を開催しました。これは二〇〇一年が「ボランティア国際年」であることを普及させるための事業の一環として、五月三十日から八月三十

一日の間で募集を行いました。短期間の募集にもかかわらず、九十二点の応募がありました。応募作品をボランティアの種類別に分けたのが「図2」です。ちなみに、最年長は七十一歳、最年少は十七歳でした。

写真家の浅井慎平氏をはじめとする審査委員による選考会が九月十八日に行われ、その結果、次の方々の作品が賞に選ばれました。また、そのほかに三十五点が入選しました。

経済企画庁長官賞…長田 正紘さん（大阪府）「魚の住める川に！」
経済企画総括政務次官賞…大月 鎮子さん（東京都）「愛に囲まれて」
経済企画総括政務次官賞…岩村 佐保子さん（栃木県）「つかめたよ！」
国民生活局長賞…北川 善剛さん（千葉県）「心のケア」IN台湾」
国民生活局長賞…中村 公一さ

ん（山梨県）「よみがえれ！砂漠の緑」
なお、審査委員は次のとおりです。

浅井 慎平氏（写真家）（審査委員長）

瀬田 信哉氏（財団法人自然公園美化管理財団専務理事）

長沢 恵美子氏（経団連1%クラブ事務局、ボランティア国際年推進協議会広報委員）

牟田 悌三氏（俳優、世田谷ボランティア協会理事長）

西藤 冲氏（財団法人日本総合研究所所長）

池田 実（経済企画庁国民生活局長）

四十点の優秀作品については、十月二十三日から二十六日の四日間、千代田区丸の内にある東京国際フォーラムのロビーギャラリーにおいて「ボランティア国際年記念写真展」を開催して、多くの方に写真を見ていただきました。今後、各地において開催されるボランティア国際年地方シンポジ



経済企画庁長官賞受賞作品
「魚の住める川に！」(長田 正紘さん)



「ボランティア国際年記念写真展」の会場風景
(東京国際フォーラムのロビーギャラリー)



経済企画総括政務次官賞受賞作品
「愛に囲まれて」(大月 鎮子さん)



経済企画総括政務次官賞受賞作品
「つかめたよ！」(岩村 佐保子さん)

ウムの会場ロビーなどにおいて、四十点の優秀作品が展示される予定になっています。

一日経済企画庁におけるボランティア団体との懇談会

経済企画庁幹部が地域に出向いて、地方公共団体、地方業界団体及び地域住民に対し、経済政策の取組や国民生活・消費者行政などを説明するとともに、日本新生プランを具体化するための経済政策の取りまとめに当たり、地域における固有の課題を把握するため、地域経済動向等をヒアリングする「一日経済企画庁」が以下の日程で行われました。

七月十九日(水) 沖縄(那覇)
八月二十二日(火) ー二十三日(水) 北海道(札幌、有珠山周辺)
九月四日(月) 石川(金沢)
九月五日(火) 福岡(福岡)
九月六日(水) 兵庫(神戸)
九月七日(木) 宮城(仙台)

九月十一日(月) 愛媛(松山)
各地において、商店街や消費生活センターの視察、地元各界との意見交換会、経済企画庁長官、経済企画総括政務次官による記念講演などが行われました。

また、経済企画庁は、国民生活の向上の観点から、以前より各省庁の行うボランティア施策を取りまとめています。またボランティア活動をはじめとした市民が行う社会貢献活動を促進する目的で成立した特定非営利活動促進法(NPO法)の所轄庁の一つでもあることから、北海道においては今年三月の有珠山噴火の際活動されたボランティア団体、兵庫においては平成七年の阪神・淡路大震災の際に活躍されたボランティア団体との懇談会が行われました。

懇談会に出席されたそれぞれの地域のボランティア団体の方は以下の方たちです。
八月二十二日(火) 北海道(有珠山周辺)
北海道社会福祉協議会(村田参

事)、赤十字心のケアセンター(斉藤副学校長)、伊達市社会福祉協議会(佐藤事務局長)、虹田町社会福祉協議会(木村会長)、(社)伊達青年会議所(唯木理事長)、(社)洞爺青年会議所(能登理事長)、災害救援ネットワーク北海道(山口代表)、(社)日本青年会議所北海道地区道南ブロック協議会(鈴木会長)、北海道YMCA(佐藤ディレクター)、(有)ピーファイブ(山崎代表取締役)、愛全会ボランティアセンター(入江コーディネーター)、虹田町ボランティア連絡協議会(三浦会長)、長万部町ボランティア連絡協議会(呉会長)、(社)北海道獣医師会(玉井獣医師)

九月六日(水) 兵庫(神戸)
アート・エイド神戸実行委員会(島田事務局長)、がんばろう!!こうべ(堀内代表)、生活協同組合コープこうべ(山添福祉・環境活動部課長)、特定非営利活動法人「コミュニティ・サポートセンターこうべ」(中村理事長)、特定非

営利活動法人「しみん基金・こうべ」(瀬戸口専務理事)、阪神大震災復興市民まちづくり支援ネットワーク(小林世話人)

北海道においては、有珠山噴火後の現地での活動を通して、以下のような意見が出されました。

・情報の発信地に人や物資が集まる傾向があり、情報発信の重要性を感じた。

・ボランティア活動をする側にも心のケアが必要である。

・ボランティアをしうとする時、問い合わせ先が分からずたり一回しにされているようなところがあつてはならない、自発的意思の受け口が必要であると感じた。

また、兵庫においては、阪神・淡路大震災後五年以上活動してきた感想並びに意見が出されました。

「困ったときはお互い様」という形でスタートし、途中で支援から自発的活動の手助けに活動内容が変わっていった。

・ボランティア活動を「してあげる」という意識から自分自身の暮らしの問題として考えるようになった。

・ボランティアを育てようというのはいいが、その結果、一億二千万人がボランティアになったときに、ボランティアができない人の問題が出てくる。できないことをできないと言っている社会、ボランティアな社会がいないのではないか。

・民間をもっと信用して行政はサポートしていただきたい。

・地域をつくるのはハードではなくて人なので、ここへのサポートをお願いします。

・NPOへの寄付への優遇措置をお願いします。

堺屋経済企画庁長官からは、被災された方へのお見舞いと救援活動に当たられたボランティアの方々へのお礼と、次のような意見が出されました。

・現地のニーズを把握し、ボランティアの意思を生かすために

は、ネットワークの構築が不可欠である。

・ボランティア活動のノウハウを蓄積して、情報発信していったほしい。

また、経済企画庁においても、NPOの我が国経済社会における重要性に鑑み、一定の要件を満たす特定非営利活動法人に対し、優遇措置を設けることを内容とする税制改正要望を大蔵省及び自治省に提出しているなど、今後も市民活動促進のための施策を行っていく旨の説明が行われました。

ボランティア国際年 キックオフ記念シン ポジウム

去る平成十二年十一月七日

(火)、新霞が関ビル全国社会福祉協議会・尾尾ホール(東京都千代田区)において、ボランティア国際年キックオフ記念シンポジウム(主催：経済企画庁・国連ボランティア計画・二〇〇一年ボランティア

Kick-off Symposium for the International Year of Volunteers ボランティア国際年キックオフ記念シンポジウム 2001年ボランティア国際年に向けたボランティアの集い

主催：経済企画庁・国連ボランティア計画 2001年ボランティア国際年推進協議会
共催：外務省 文部省 厚生省 労働省 自治省



あいさつする堺屋経済企画庁長官

国際年推進協議会、共催…外務省・文部省・厚生省・労働省・自治省）が開催されました。

堺屋経済企画庁長官のあいさつ後、第一部として、世界、アジア、日本からの二十一世紀のボランティアに期待するメッセージが発信されました。

ここでは、その要旨の一部を紹介します。

《世界からのメッセージ》

シャロン・ケイプリング・アラキ
ジャ国連ボランティア計画事務局長
・東ティモールにおける国連の平和維持活動として様々なボランティアが活躍した。

・ボランティア活動は年齢を超えて老若一体となる機会を提供するものである。

・ボランティアに関しては、自ら選んで参加するということが大切である。

・ボランティア活動をしている人たちの環境整備を行う必要がある。

・インターネットを活用したボラ

ンティアの呼びかけは非常に有効である。

《アジアからのメッセージ》

カン・ヒュン・リー ボランティア国際年韓国委員会運営委員長
・ある調査によると、二十歳以上の韓国人のうち、一四％の人たちが一週間に平均二・二時間ボランティア活動に携わっており、金額に換算すると二十億四千五百万ドルに相当する。

・韓国では、中学生、高校生はボランティアが義務づけられているが、適切なプログラムなど環境整備が今後の課題となっている。

・二〇〇二年のワールドカップが韓国と日本の共催であることから、「ボランティア国際年」に向けて、韓国と日本によるボランティアサッカー大会を計画している。

《日本からのメッセージ》

阿部志郎「広げようボランティアの輪」連絡会議会長

・洋の東西を問わず、分野や思想

や宗教の違いを超えて、二つの原理が働いている。一つは人からしてほしいと思うことをそのとおり人にしなさい（聖書）、もう一つは己の欲せざるところ人に施すなかれ（論語）。積極的な行動と自制とのバランス、ヨーロッパがつくった与える文化とアジアがつくり出してきた受ける文化とをいかに均衡させながら新しい文化をつくり上げるかが二十一世紀の課題である。

・受身ではなく、創造構築するという形成概念に立つということがボランティアの原則である。

・ボランティアというのは相手に光を見つけて、自分も相手ともに照らされる、そういう社会をつくり出していく人生の営みのプロセスではないか。

続いて、基調講演をしていただいた三人に経済企画庁の池田国民生活局長を加え、山崎美貴子氏（ボランティア国際年推進協議会代表、明治学院大学副学長）をコー

ディネーターとしてパネルディスカッションが行われました。ボランティア活動の中でもユニークな活動例やIT（情報技術）革命によるボランティア活動の円滑化、ボランティア活動のためのインフラ整備など、話題は多岐にわたりました。

以下は、「ボランティア国際年」を進めていくために何が大切かという山崎氏の質問に対するパネリストの答えです。

リー…グローバルに考えて、think globally act locally シンク グローバリー、アクト ローカリーという言葉がありますけれども、まずやりやすいことから始めることが大事だと思います。自分の近く、身近にあることをやるということです。どうしてよいか分からない人は、ボランティアセンターのホームページにアクセスしてみてください。

阿部…記者クラブに対する希望です。ボランティアは確かに変わ



ってまいりましたし、非常に多様化しております。そのボランティアに対して、計画的、継続的に取材をお願いしたい。それによってボランティアの現状、その持つメリット、デメリット、問題点、課題をぜひ提起してい

ただきたい。

池田…ボランティアというのを生活の中の普通のことというふうにかけてやってみたらどうでしょう。まず自分が思ったことをやってみる、それからだんだんいろいろなところに広がっていく

くのではないでしょう。か。あまり私もそんな経験があるわけではないので偉そうなことは言えませんが、そうしなければいけないと自分で思っている次第です。

また、国連ボランティア名誉大使の中田武仁氏から次のような意見がありました。
中田…二つのことについて留意していただきたいと思

います。

一つは、この国際年というのは毎年国連が世界各国の人たちに訴えかけている、現在、私たちが抱えている問題について国際的に考えてみよう、行動してみようというところで設定しているものではないです。毎年どんな場合でも、国際何々年と書いてあるんですね。二〇〇一年だけが「ボランティア国際年」なんです。

ボランティアには国と国とを隔てたようなものはないということなんです。これまで一度もなかった、ボランティアの国際年になっているということが一つ。

これは大変に象徴的な、日本における考え方を代表した言葉づかいだと思います。「国際ボランティア年」とすると、では国内のボランティアはどうなるかというような議論が出てくる



意見を述べる国連名誉大使の中田武仁さん

かもしれないとおもなばかつてつけられた言葉ではないかと思っています。

もう一つは、国連が今まで定めていた国際年は、大体の場合、その後についてくる言葉の人が受益者になるんです。ところがボランティアたちは受益者じゃないということです。国連が受益者ではない人たちを国際年にしたというのは、大変に有意義なことだと私は思っています。

この「ボランティア国際年」という言葉の持つている意味合いというものをよく気をつけていただきたいと思います。

第二部では、ボランティア活動の重要性を若者に訴えていこうという趣旨から、パーシモン弦楽四

重奏団（芸術福祉振興機構グレイス・ソサエティ）によるミニコンサートに続き、「私たちとボランティア」というタイトルで、ニユースキャスターの武内陶子さんとサッカー解説者で元Jリーガーの宮澤ミシェルさんによるトークセッションが行われました。

以下、その概要を

紹介します。

武内…Jリーグというのは地域に根ざして活動していますね。

宮澤…そうですね。ジェフ市原の場合、地域への誘致、試合会場の案内や切符切りなどもボランティアです。

武内…ボランティアというのも、随分裾野が広がった気がします。それは、阪神大震災がきっかけだったのかもしれない

せん。私もその時大阪にいて取材をしました。普通の人が一瞬一緒に活動をしていました。一昔前だとボランティア＝正しいものとか、地味、暗いなどのイメージがあったような気がするのですが、最近では変わってきているんじゃないかな。

宮澤…ここにきて非常に変わっていると思います。一人一人がボランティアの心を持つようになってきたと思うし、それを感じることができるようになってきたと思います。

武内…ミシェルさんは、サッカーを子どもたちに教えているのが、なぜ教えているのですか。宮澤…やりたいからです。自発性です。それから、自発性を生むためには、指導者の立場であれば、楽しさを教えないと長持ちしないし、苦痛になると思います。

武内…ミシェルさんはこれからもボランティアでサッカーを教え

ていくつもりですか。

宮澤…本当にボランティアという時とお小遣いをいただいている時があります。でも、僕も子どもを持つ親ですから、何かできないかなと気を配りながら、ボランティアはしていきたいと思っています。

武内…ボランティアってできることから楽しんでほしいんです。私も大段に構えないで、自然な形でできればいいのかなと今日は思いました。

若干の休憩を挟み、最後にマイクジャック「二十一世紀への私へのV宣言」と題して、第二部のゲストや参加者の方たちがボランティア活動への意欲や今後の展望、ボランティアを通じて社会参加の在り方などについての意見等が出されました。

二〇〇一年ボランティア国際年キックオフ記念シンポジウムは盛況のうちに閉会しました。

（経済企画庁）

武内陶子さんと宮澤ミシェルさんによるトークセッション



「ボランティア国際年 記念シンポジウム」 開催のお知らせ



ハーティーくん

ボランティア活動についての理解や
ボランティア活動への糸口を見つけていただくことを目的として
経済企画庁、地方公共団体、各地のボランティア団体が協力して
全国各地で「ボランティア国際年記念シンポジウム」を開催します。

ボランティア国際年記念フォトコンテストの
入賞作品を展示する写真展も併設予定です。

みなさまお誘い合わせのうえ、
多数のご来場をお待ちいたしております。

(平成13年)

開催地	開催月日	時間	会場
神戸	1/20(土)	13:00~17:30	兵庫県公館
	1/21(日)	10:30~16:00	神戸クリスタルタワー クリスタルホール デュオこうべ デュオドーム 神戸ハーバーランド スペースシアター
京都	1/23(火)	10:30~15:30	京都産業会館8階シルクホール
長崎	2/3(土)	10:30~16:20	長崎ブリックホール、長崎県総合福祉センター
盛岡	2/16(金)	10:00~15:00	岩手県民会館中ホール
甲府	2/24(土)	13:00~19:30	山梨県ボランティアセンター
	2/25(日)	9:00~15:30	山梨県立文学館
徳島	3/4(日)	13:30~16:45	徳島県郷土文化会館
熊本	3/10(土)	10:00~17:00	熊本市総合女性センター
	3/11(日)	9:00~17:00	
福井	3/18(日)	10:00~17:00	福井県国際交流会館